

それは、日差しの温もりを感じつつの好日。

田植えにはまだ今しばらくの時、水深50cmにも満たない古川排水路でのバトルを目にしました。



周辺を泳いでいたコイが集まりました。

頭の方を観察すると、写真の中心部の水草に焦点がありそうです。

コイたちは体を寄せ合い、密度が高くなり、重なり合っているものもあります。





このように背びれを水面に出すものもあり、にぎやかに集まります。



突然、バシャバシャと水をたたき音が四方から伝わります。尾びれで叩く水は白く泡立ち、体は重なり合い、のけずるもの、頭を突っ込むもの、それは、それは、けたたましく見えます。



力の限りに見える雄々しさに感動です。





その出来事は数秒で終わります。 コイの輪が解けはじめます





コイは平静を取り戻したようです。 のんびり泳いでいるものも見られます。

その平静もつかの間のこと、
他方ではあのバトルが始まりました。

古川の流りはコイの恋の季節を迎えています。

コイの産卵は、4～6月、水温20度前後が適です。

水草や水面に浮いたゴミなどに卵を産みつけます。

紹介したように、水草に産卵するメスを追い、オスが集まって来ていました。群れている時



にはメスの姿を確認することは難しいのですが、群れから離れた一尾を追う姿を目にするとオス、メスを見分けられます。しかし、メスが群れを離れるとすぐにオスが寄り集まり、バトルが展開されます。

コイという名は「体が肥えている」、「味が肥えている」からきているといわれるようです。古川に泳ぐコイの味は如何なものでしょう。「泥臭くて食えるか」とも聞きます。沢山が泳いでいます。食べる人がいないからでしょう。 まずいからか？ 飽食の時代だからか？ 私には分かりません。